

世界が進むチカラになる。



グラフで見る東海経済 (2024年6月)

2024年6月11日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 東海経済は、足踏み状態となっている
- 3月の生産(東海3県)は前月比+5.0%と2ヵ月連続で増加したが、水準はまだ低く足踏み状態となっている
- 4月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比+0.2%と2ヵ月連続で上昇したが、水準はまだ低く足踏み状態となっている
- 個人消費は総じて持ち直しの動きがみられるものの、4月の小売販売額(実質)は、前年比でマイナスとなった
- 4月の公共工事請負金額は、例年に比べ高めの水準となった

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	足踏み状態となっている(↑)
輸出	足踏み状態となっている
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	高めの水準となっている(↑)

注: ()内は前月からの変化の方向

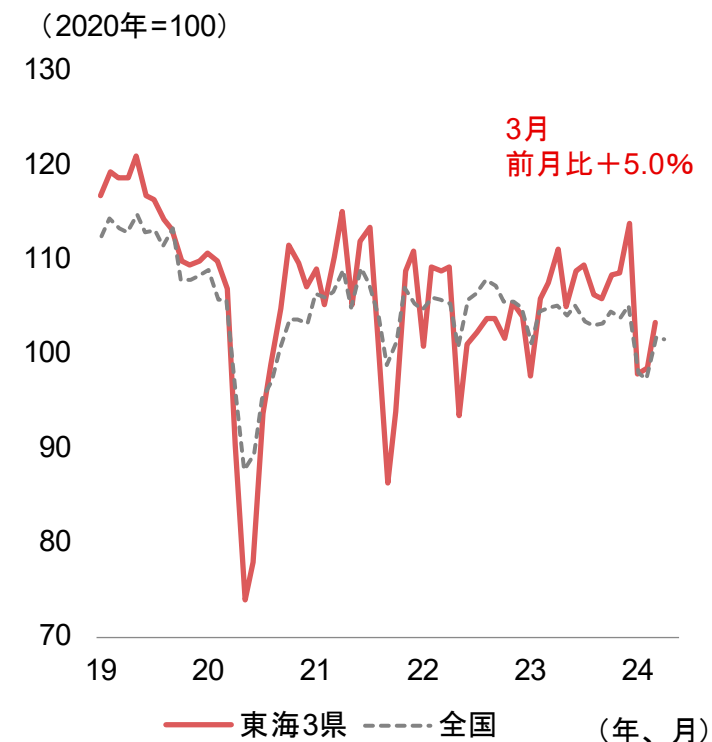
生産は、「弱含んでいる」から上方修正(↑)

公共投資は、「例年並みの水準となっている」から上方修正(↑)

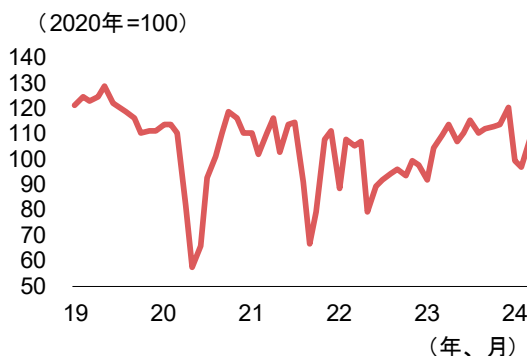
生産

3月の鉱工業生産(東海3県)は、前月比+5.0%と2カ月連続で増加したが、水準はまだ低く足踏み状態となっている。輸送機械の生産に持ち直しの動きがみられたが、新たに発覚した「型式指定」不正の影響等で、先行きについては一進一退が見込まれる。

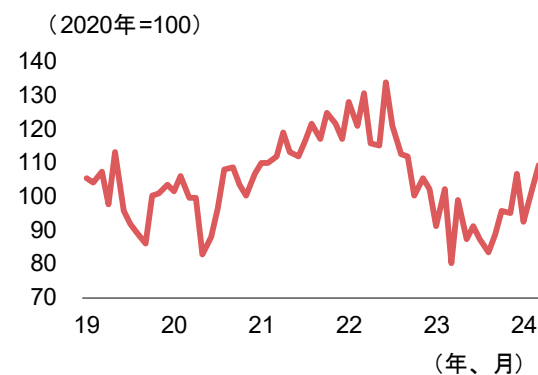
鉱工業生産指数



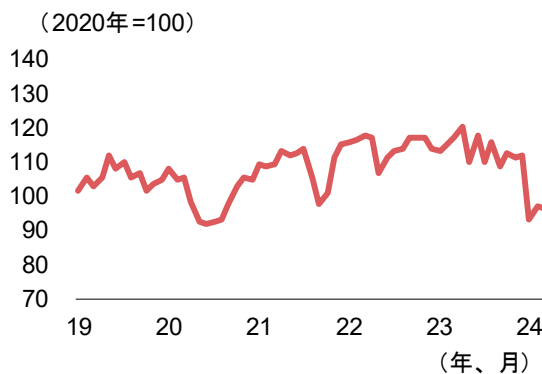
輸送機械



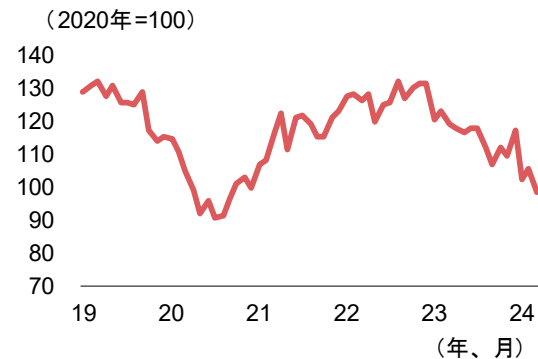
電子部品デバイス



電気機械



汎用・生産用・業務用機械

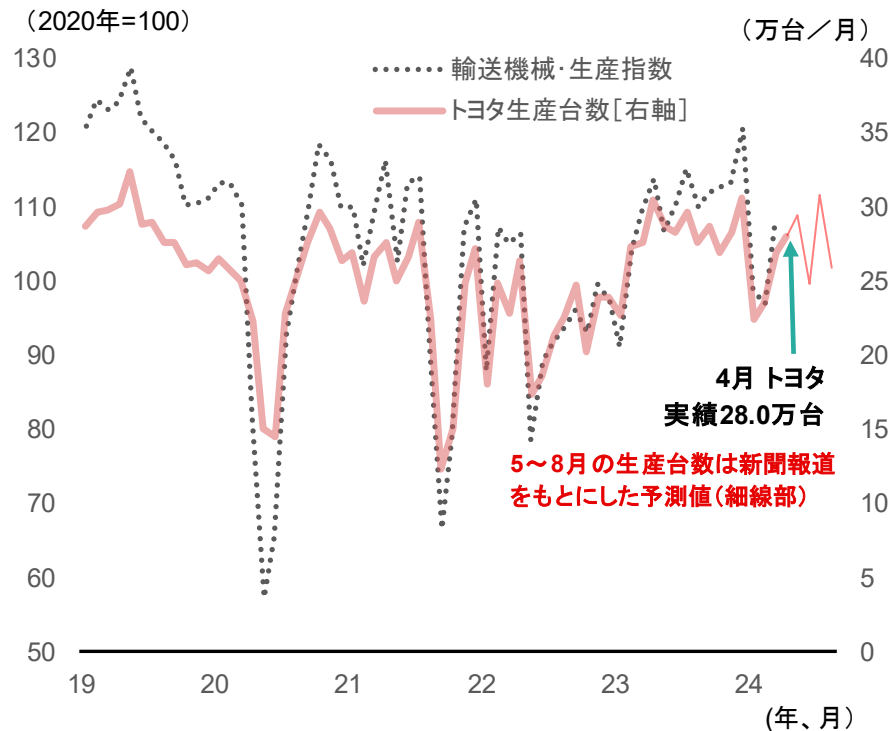


(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

生産（トヨタ国内生産）

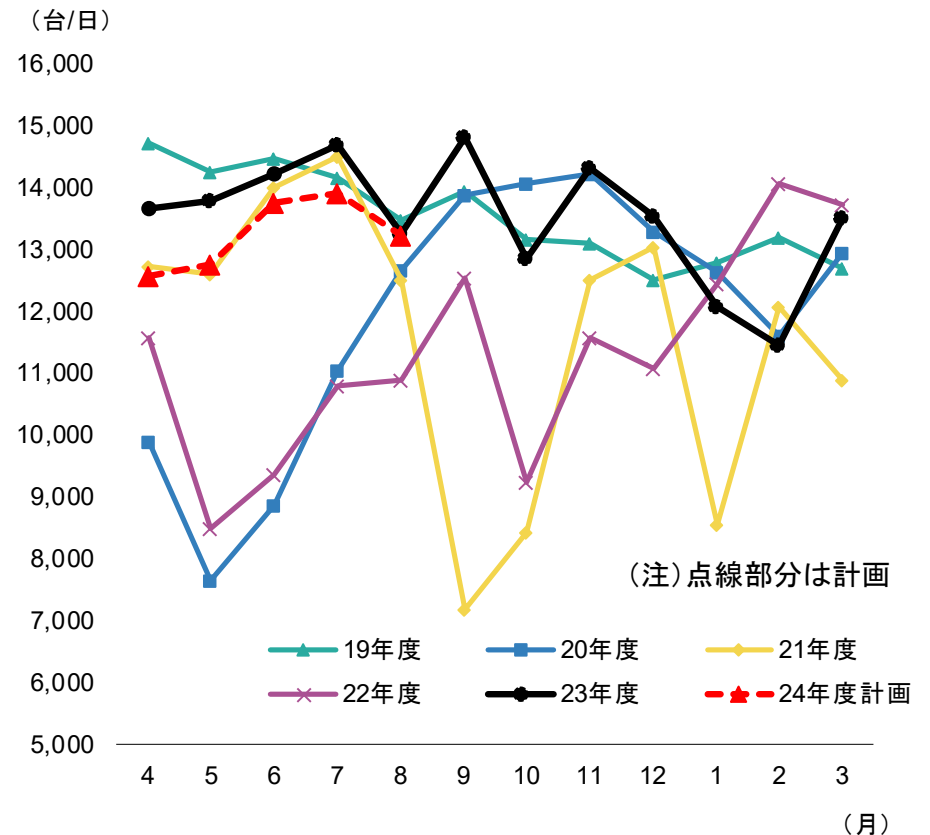
4月のトヨタ生産台数(弊社季節調整値)は28.0万台と3ヵ月連続で増加し、持ち直しの動きがみられる。5月以降については、プリウスのリコールによる生産停止、新たに発覚した「型式指定」不正による生産停止もあるため、一進一退での推移が見込まれる。

トヨタ月次生産台数(季節調整値)



(注)トヨタ生産台数の季節調整はMURC試算、輸送機械・生産指数は東海3県のもの
(出所)中部経済新聞、鉄鋼新聞、中部経済産業局「鈹工業生産指数」

トヨタ日当たり生産台数(原数値)



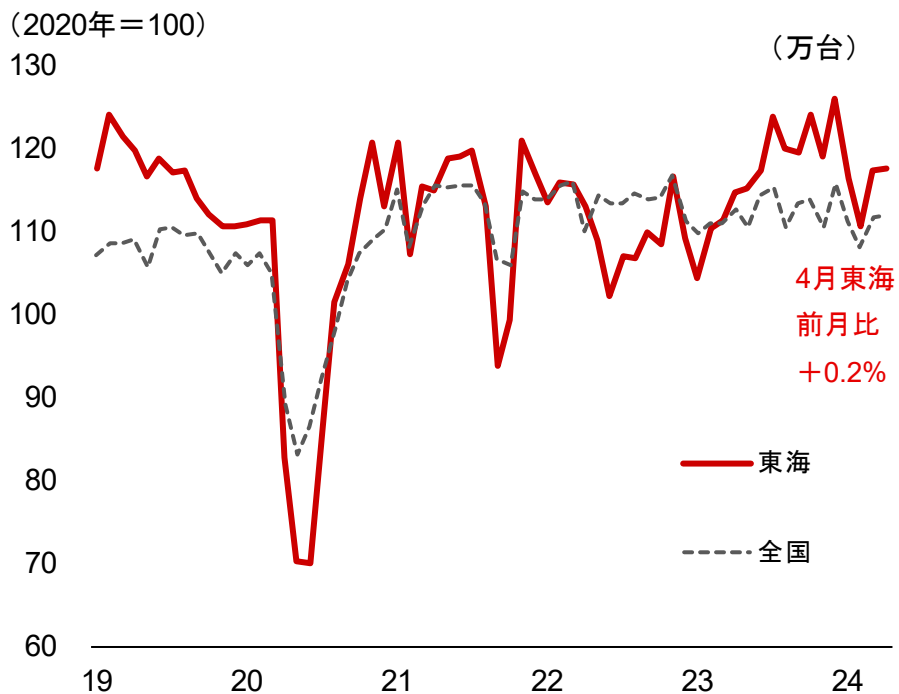
(出所)トヨタ自動車HP、中部経済新聞、鉄鋼新聞

輸出

4月の実質輸出指数(季節調整値)は、前月比+0.2%と小幅ながら2ヵ月連続で上昇したが、水準はまだ低く足踏み状態となっている。

なお、当社試算による4月の輸出数量指数(季節調整値)も、前月比で2ヵ月連続で上昇した。

実質輸出指数(季節調整値)



(出所)日銀名古屋支店「実質輸出入」

(年、月)

輸出数量指数(季節調整値)

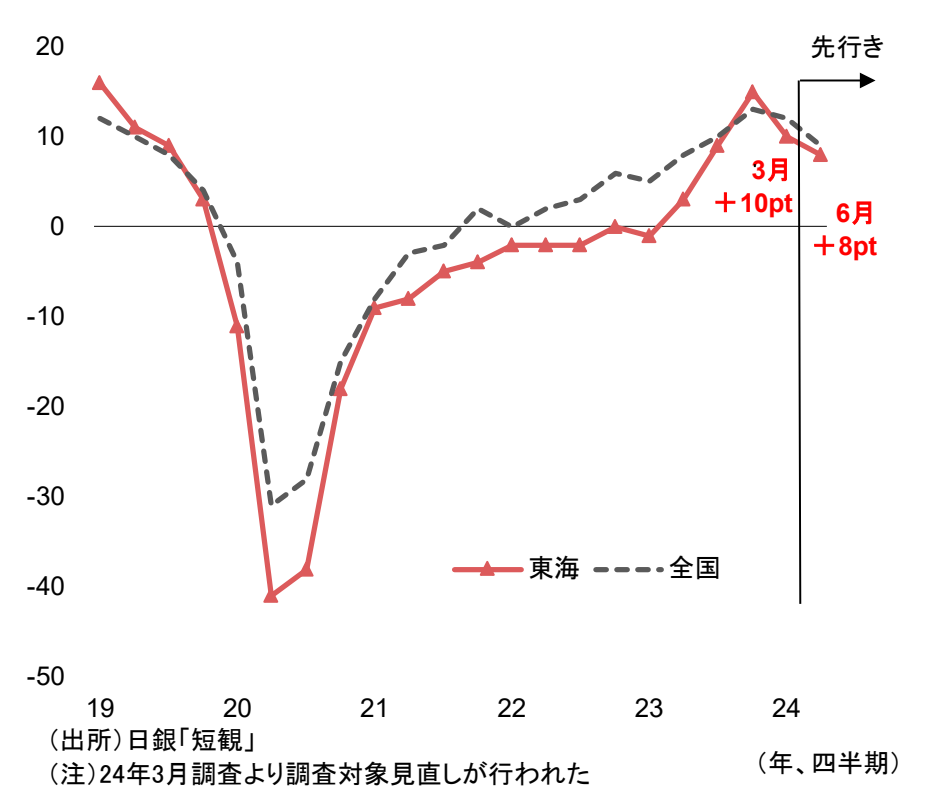


(注)東海の数量指数はMURC試算。輸出金額(指数)を輸出価格指数(全国)で除したもの。

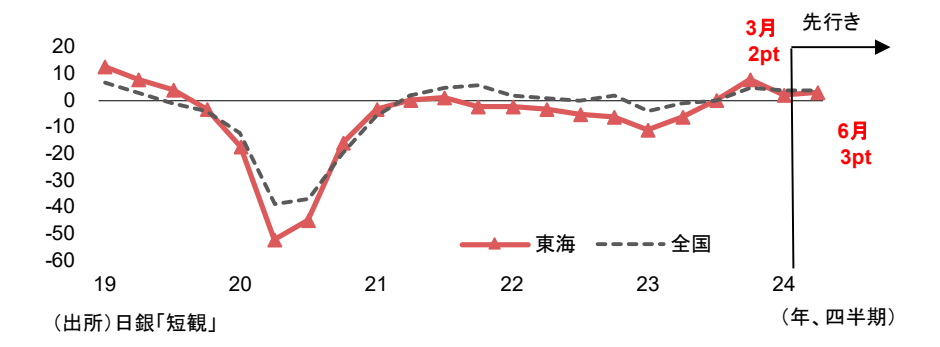
企業景況感(日銀短観) ※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査の業況判断DIは、全産業で+10ptと12月調査(+15pt)から悪化した。製造業、非製造業ともに悪化した。製造業では鉄鋼、非鉄金属、電機機械、自動車などが、非製造業では運輸・郵便、対事業所サービス、宿泊・飲食サービスなどが悪化した。先行きについては、製造業では小幅改善、非製造業では悪化を見込んでいる。

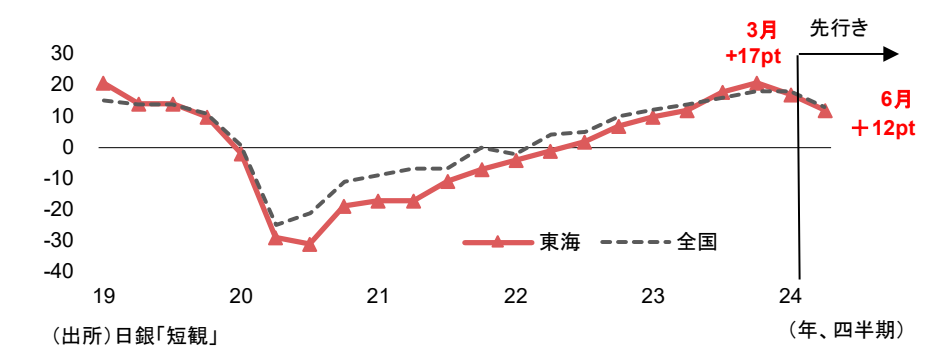
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



同 非製造業

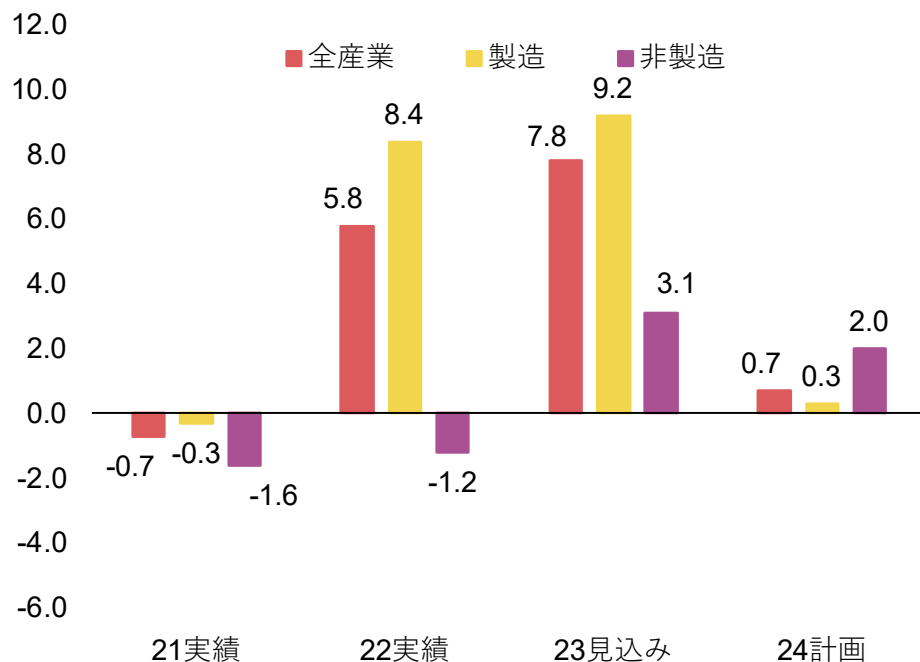


設備投資（日銀短観）※以下は4/1公表の3月調査。6月調査は7/1公表予定

日銀短観3月調査によると、23年度の設備投資は、全産業で+7.8%の見込み。24年度については、3月調査であるため暫定値の位置づけではあるが、全産業で+0.7%の計画となっている。23年度が高めの伸びであったことを考えると、24年度も相応の投資が見込まれている。

設備投資 実績・計画

(前年比、%)



(出所)日銀名古屋支店「短観」

(年度)

(注)含むソフトウェア・研究開発、除く土地投資

設備投資額(前年比%)

	22年度実績	23年度計画		24年度計画	
		今回調査	前回調査との差異		
全産業	5.8	7.8	(-0.3)	8.1	0.7
製造業	8.4	9.2	(0.0)	9.2	0.3
非製造業	-1.2	3.1	(-1.5)	4.6	2.0

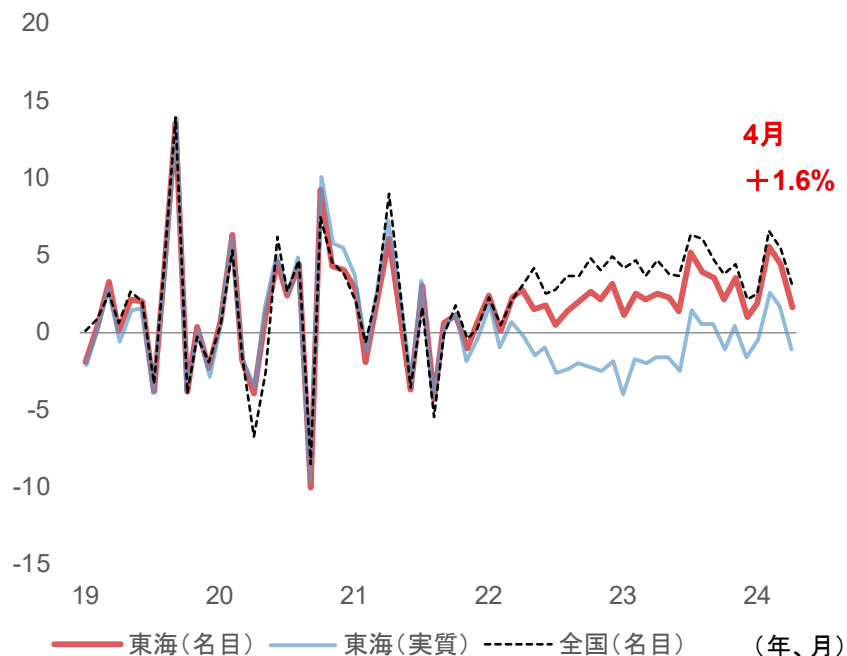
個人消費(小売売上、自動車販売)

4月の小売販売額(名目)は前年比+1.6%と29カ月連続でプラスとなった。実質値を試算すると、4月は前年比-1.1%と3カ月ぶりにマイナスとなった。

4月の新車販売は、前年比-9.7%と4カ月連続でマイナスとなった。ダイハツ、トヨタの出荷停止は一旦解除されたものの、販売面での前年割れは続いている。

小売販売額(6業態計)

(前年比、%)

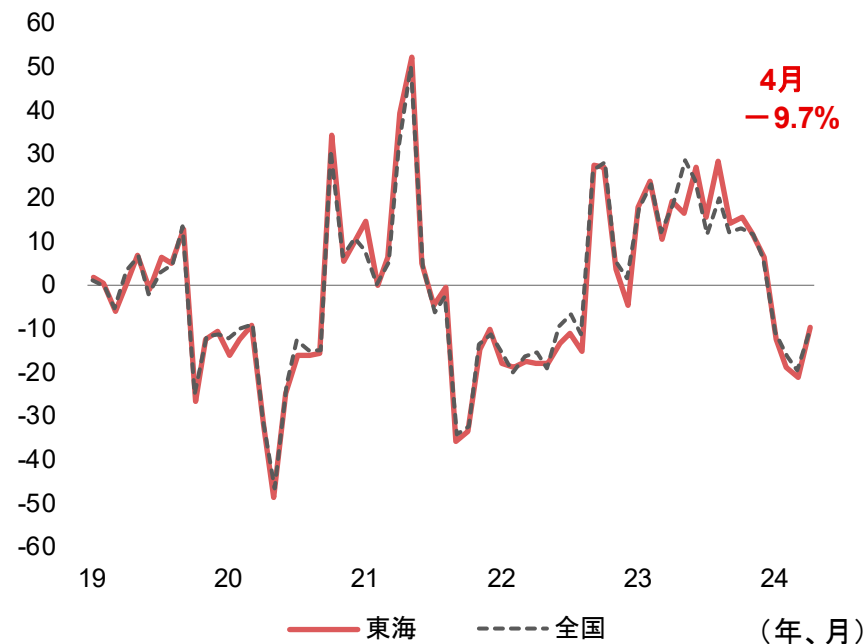


(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(東海)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

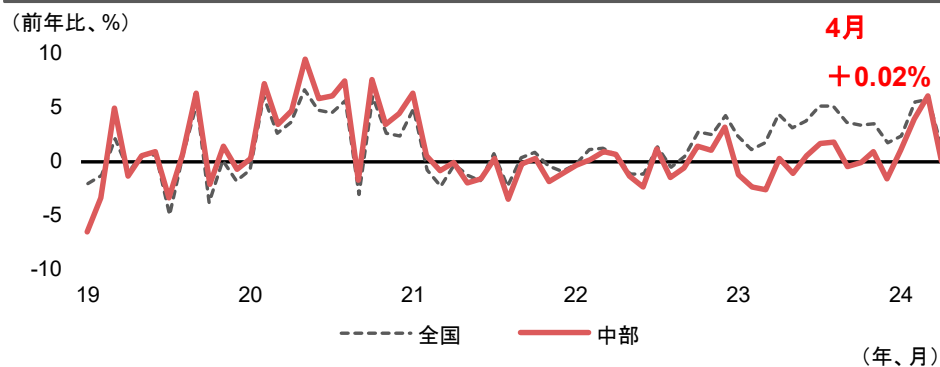


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費(業態別)

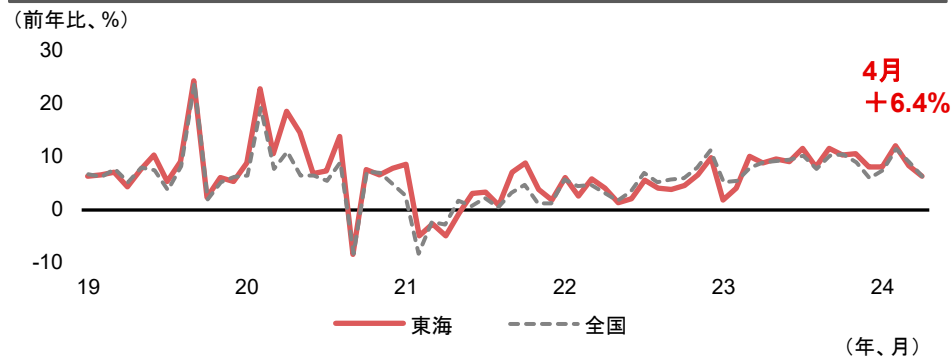
4月の業態別小売販売(名目)を見ると、スーパー(中部5県)は前年比+0.02%と前年並みであった。
4月の百貨店売上(名古屋)は、高額品販売、インバウンドの好調により、前年比+9.0%と31ヵ月連続のプラスとなった。

スーパー販売額



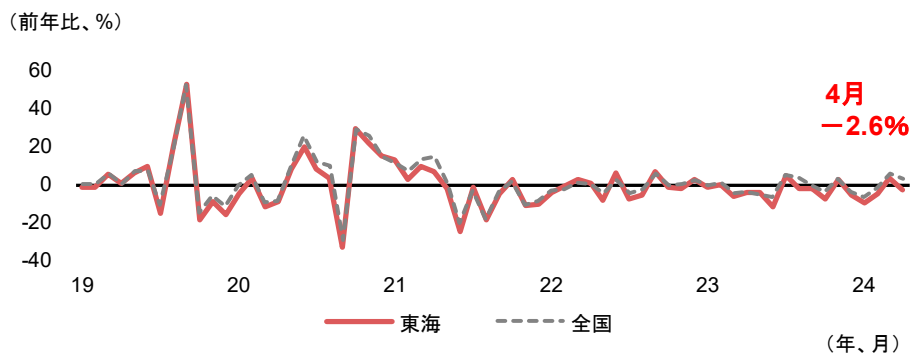
(出所)経済産業省「商業動態統計」

ドラッグストア販売額



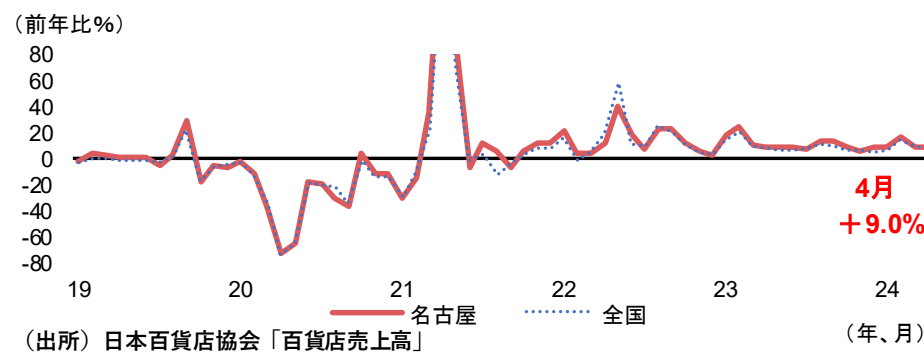
(出所)経済産業省「商業動態統計」

家電大型販売店販売額



(出所)経済産業省「商業動態統計」

百貨店売上高



(出所)日本百貨店協会「百貨店売上高」

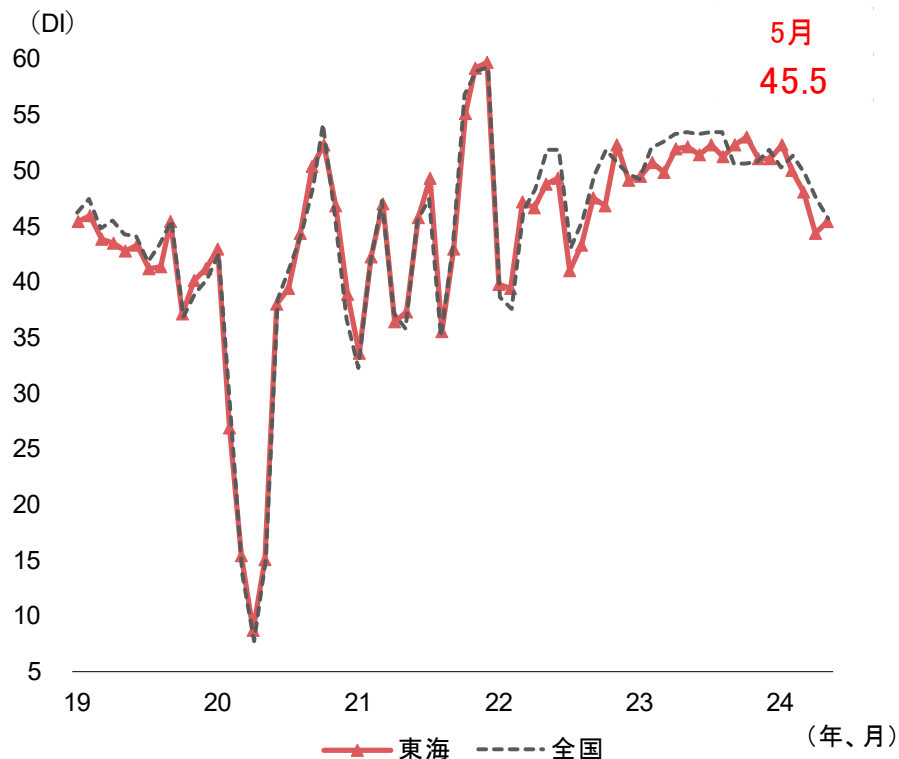
(注)店舗調整後前年比

マインド・景況感

5月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、前月差+1.2ポイントの45.5となったが、横ばいを示す50を3カ月連続で下回った。。物価高、コスト高が響き、景況感に弱さがみられる。

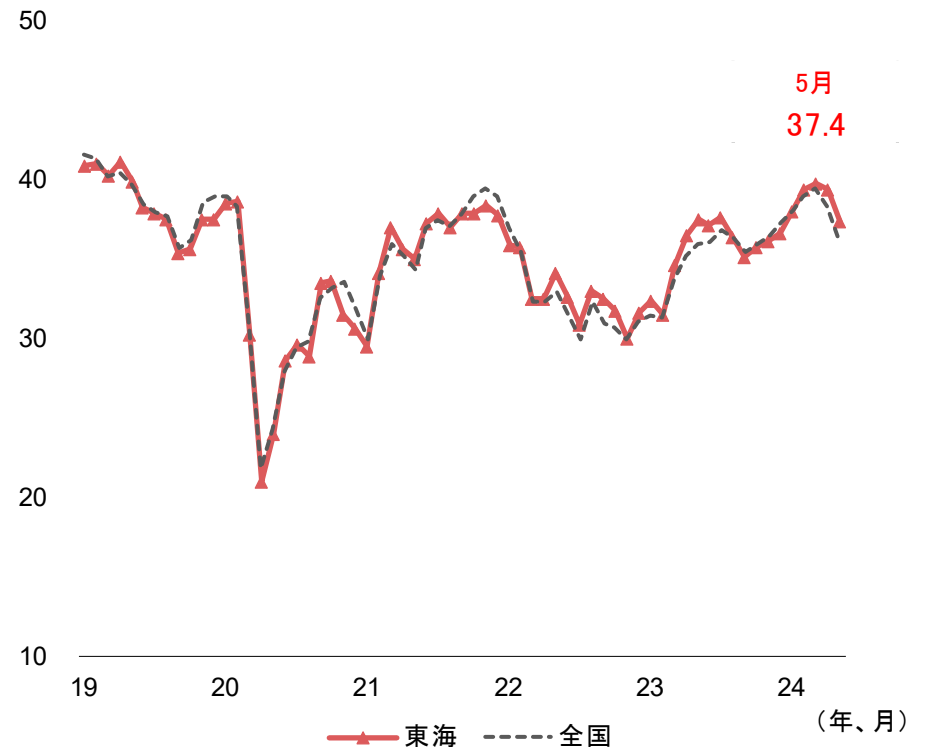
5月の消費者態度指数は、2カ月連続で低下した。

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

消費者態度指数



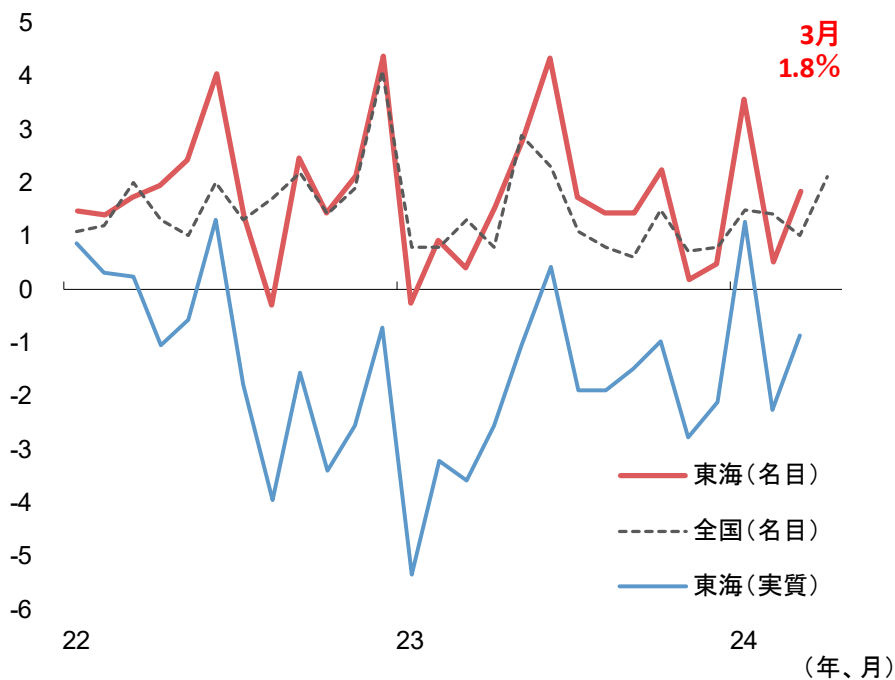
(注)東海の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

賃金・雇用

3月の名目賃金は、前年比+1.8%と14ヵ月連続のプラス。三重が前年比で減少したが、愛知、岐阜が増加した。4月の有効求人倍率は1.34と前月からほぼ横ばい。全国に比べ求人倍率が高い状態が続いている。24年1-3月期の就業者数は前期比で減少、失業者数は上昇し、失業率は2.2%と上昇した。

賃金指数

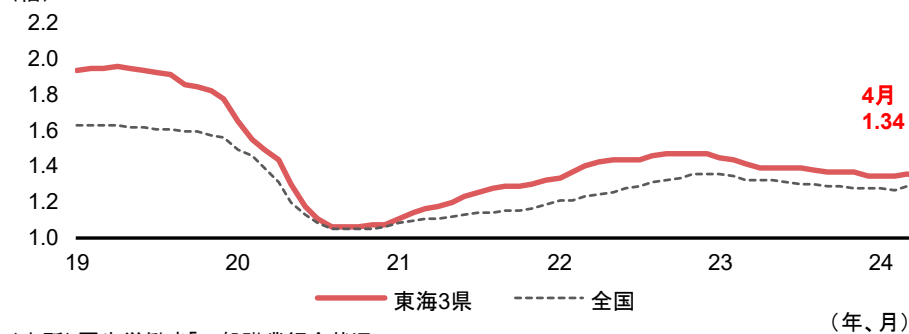
(前年比、%)



(出所) 東海3県の名目賃金指数(現金給与総額)、常用雇用者指数よりMURC作成
(注) 「持家の帰属家賃を除く総合(東海)」で実質化

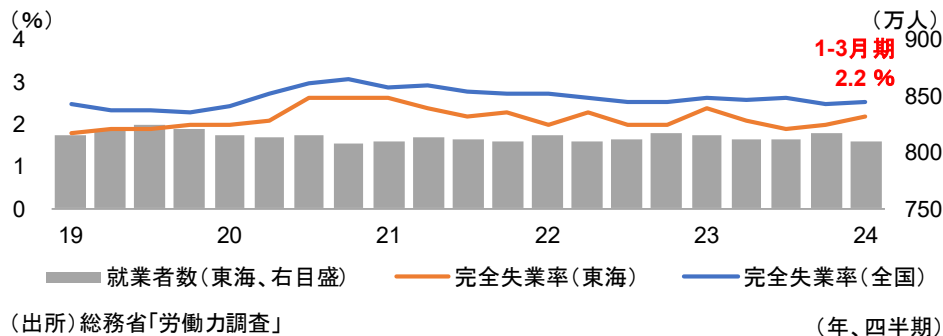
有効求人倍率(季節調整値)

(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

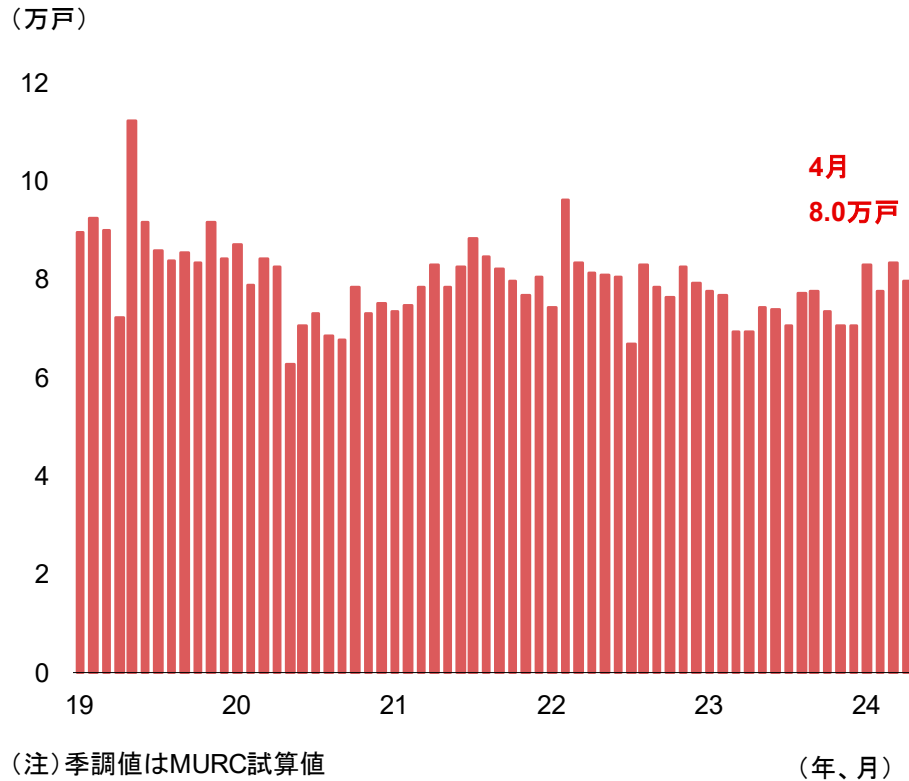


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

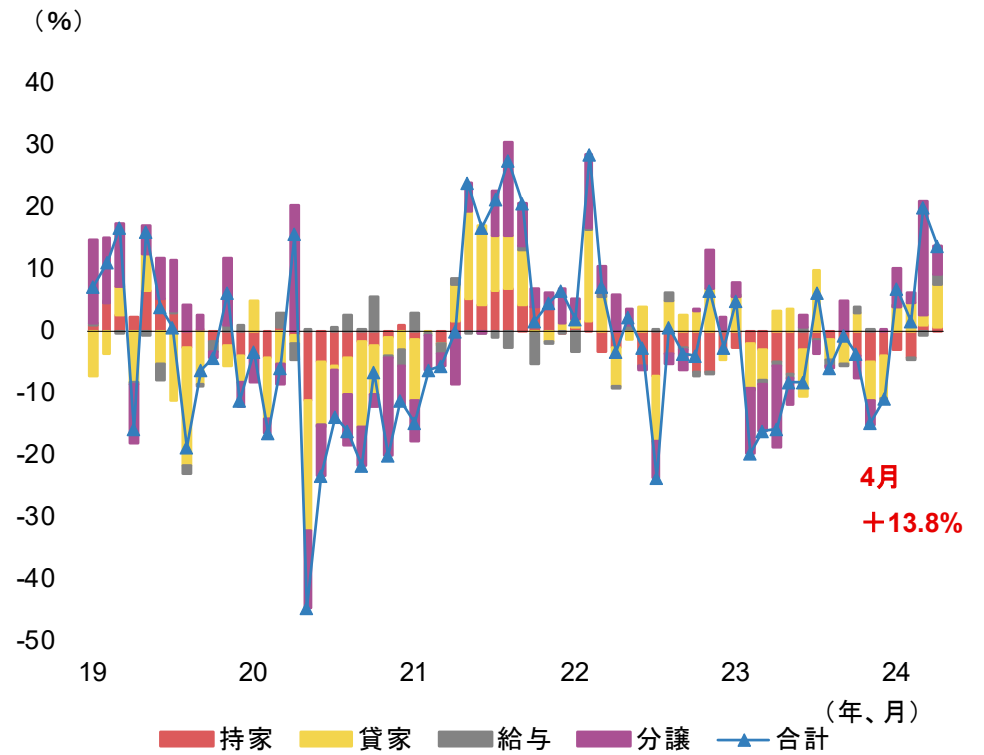
4月の住宅着工は、季節調整済年率換算で8.0万戸と2ヵ月ぶりに減少。前年比では+13.8%と4ヵ月連続で増加、貸家、分譲マンションが増加に寄与した。東海の住宅投資は、均してみると横ばい圏で推移している。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

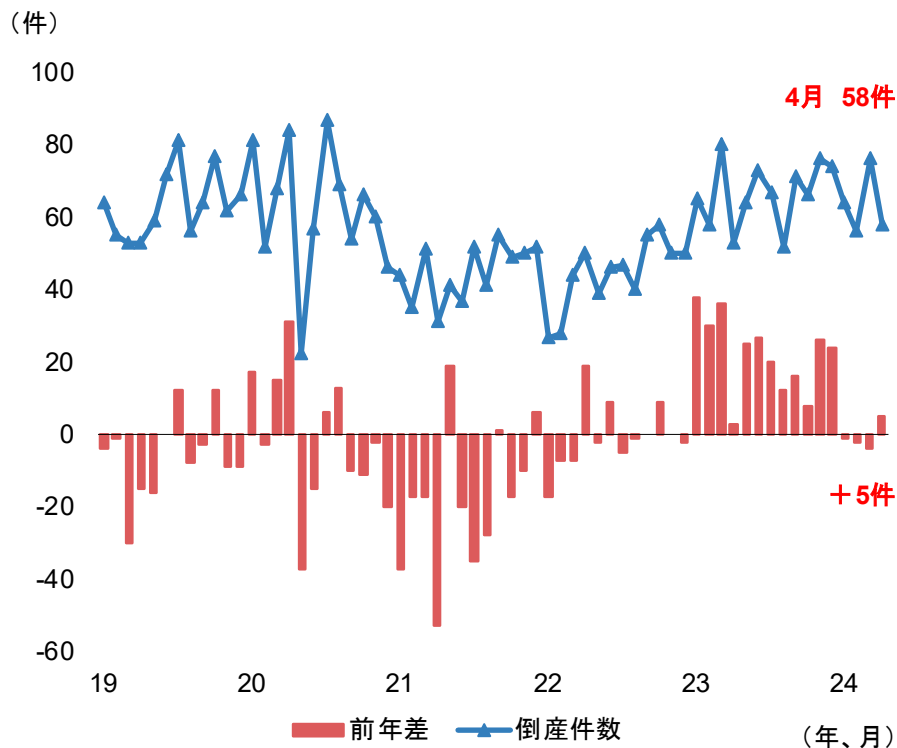


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

4月の倒産件数は前年差+5件の58件。コロナ前程度の水準となっている。

倒産件数

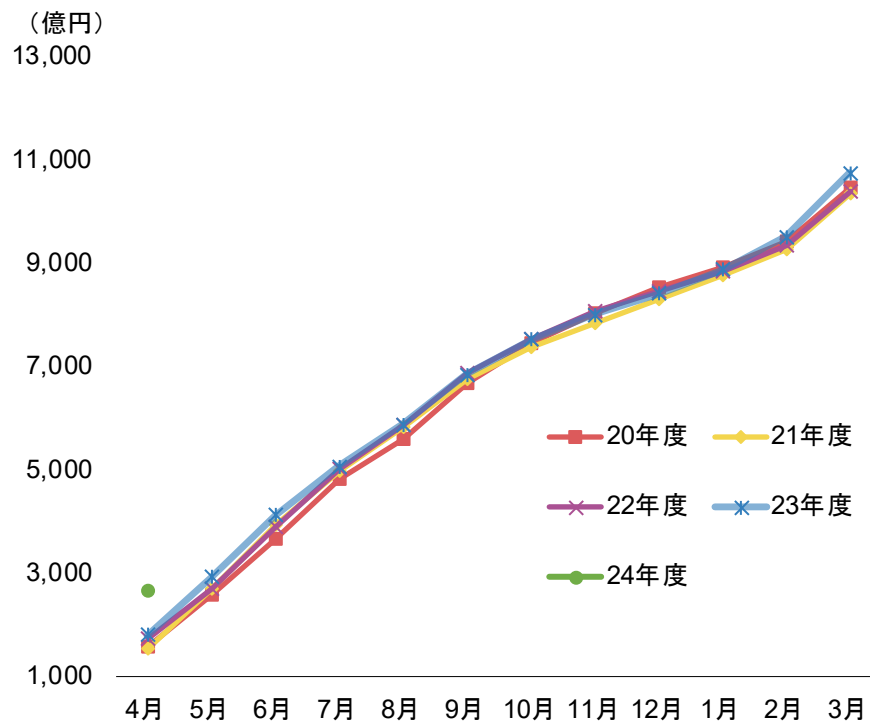


(出所)東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

4月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+48.6%の2,658億円と、例年に比べ高めの水準となった。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー